

カキ生育情報

千葉県
平成26年12月号

1年間の気象

平成25年12月から平成26年11月までの月別気象は表1に示した。月平均気温は平成25年12月、平成26年2月、4月、8月、9月で平年を下回り、この1年間の平均気温は15.5℃で平年より0.1℃、前年より0.2℃低かった。降水量は平成25年12月、平成26年3～5月、7～9月、11月で平年を下回り、この1年間の合計は1,747mmで平年の87%、前年の94%であった。日照時間は平成25年12月、平成26年3月～7月、9～10月で平年を上回り、この1年間の合計は2,097時間で平年の108%、前年と同程度であった。

表1 平成25年12月～平成26年11月の気象（暖地園芸研究所）

年	月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H25	12	7.8	8.5	7.4	75	91	148	180	166	164
H26	1	6.5	5.9	5.0	90	88	75	158	169	156
	2	5.9	6.3	5.7	142	103	147	120	151	133
	3	9.7	9.2	11.8	167	182	69	179	154	189
	4	13.3	13.9	14.3	166	172	225	191	166	202
	5	18.1	17.7	17.7	162	177	109	248	186	220
	6	21.2	20.7	20.8	334	247	243	154	135	111
	7	24.4	24.3	24.6	55	180	57	203	175	188
	8	25.5	26.0	26.9	62	138	32	213	220	254
	9	21.7	22.9	23.2	122	227	186	180	146	187
	10	18.1	18.0	19.0	305	261	455	141	137	130
	11	13.8	13.2	12.5	67	146	119	130	144	173
平均/計		15.5	15.6	15.7	1,747	2,012	1,865	2,097	1,949	2,107

平年：1968～2013年の平均

本年度産果実の特徴

本年産のカキの生育状況を振り返ると、3月の気温が高かったため、発芽期は平年より早かったが、4月の気温が平年より低かったため、開花期は平年より遅れた。春先の強風により新梢の枝折れや葉の傷害が目立った。本年は、裏年で着果量は平年よりやや少なかった。梅雨明けが7月22日で平年より1日遅かったが、初夏から初秋にかけて降水量が少なかったため、果実の肥大は遅れ、収穫果は平年より小さかった。生理落果は平年並みで、炭疽病の発生が多く、カメムシ類の発生も多かった。

収穫期

暖地園芸研究所(以下暖地園研)における収穫期は表2に示した。収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「西村早生」が9月16日、22日、30日、「松本早生富有」が10月7日、18日、11月4日、「富有」が10月14日、24日、11月10日であった。いずれの品種も平年より始期が2～11日、盛期が7～17日、終期が3～9日早かった。本年の収穫は3品種共に平年より早く始まり、早く終了した。

市原市の「松本早生富有」の収穫始期、盛期及び終期は、それぞれ10月10日、31日、11月12日で、前年より始期が5日、盛期が8日、終期が6日遅かった。

表2 収穫期（暖地園芸研究所）

品 種	収穫始期(月.日)			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	9.16	9.18	9.17	9.22	9.29	10.3	9.30	10.8	10.21
松本早生富有	10.7	10.12	10.7	10.18	10.25	10.15	11.4	11.7	11.5
富 有	10.14	10.25	10.15	10.24	11.10	10.23	11.10	11.19	11.11

平年：1997～2013年の平均

果実の品質

収穫果実の大きさ、糖度、へたすき及び汚損果程度は表3に示した。1果平均重は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ172g、205g、「富有」が216gであった。いずれの品種も平年より14～16%程度小さかった。

糖度は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ15.4、16.5、「富有」が17.1であった。いずれの品種も平年よりそれぞれ0.8、1.2、1.8高かった。

へたすきの発生は「西村早生」が前年より少なかったが、「松本早生富有」及び「富有」は前年と同程度であった。

汚損果程度はいずれの品種も前年と同程度であった。

病害虫の発生

暖地園研では、炭疽病の発生が平年より多くみられ、樹上軟化する果実も多かった。

果樹カメムシ類の発生が市原市及び暖地園研で多くみられ、被害果は前年よりかなり多かった。また、暖地園研では台風による潮風害で葉が黒くなり、落葉がみられた。

表3 果実の大きさ及び品質

品 種	調 査 地	1果平均重(g)			糖度計示度(Brix)			へたすき		汚損果程度	
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	前年	本年	前年
西 村 早 生	いすみ市	191	199	192	15.3	14.4	14.7	—	—	—	—
	暖地園研	152	199	193	15.4	14.7	14.7	無	少	少	少
	平 均	172	199	193	15.4	14.6	14.7	—	—	—	—
松本早生富有	市原市	181	228	—	16.9	15.6	—	—	—	—	—
	暖地園研	229	246	220	16.1	14.9	16.3	少	少	少	少
	平 均	205	237	—	16.5	15.3	—	—	—	—	—
富 有	暖地園研	216	257	202	17.1	15.3	16.9	微	微	少	少

平年：暖地園研は1990～2013年の平均、いすみ市及び市原市は1998～2013年の平均

12～5月の作業

整枝・せん定

整枝、せん定は厳寒期を過ぎたら始め、結果母枝の充実度を確認したうえで、結果過多にならないように留意し、間引きせん定中心に行い、切返しせん定による枝の更新も行う。特に不必要な徒長枝及び軟弱枝はすべて取り除き、病害虫多発園では密集した枝を風通しのよくなるように適宜間引く。

摘 蕾

開花10日前～開花直前(5月上中旬頃)に行う。摘蕾は樹体の消耗を抑え、大果及び高品質果生産と隔年結果防止のために行うので、せん定の一部と考える。着蕾量が少ない場合は、小花、奇形花は落とすが、着蕾量を確認しながら過度に行わないようにする。着蕾量が多い場合は、開花7～10日前に充実した花蕾を1結果枝に1蕾残すように摘蕾する。

病害虫防除

病害虫の越冬源を絶つために、落葉の処分と粗皮削りを徹底して行う。うどんこ病、落葉病、黒星病の予防は、発芽前の3月中下旬が防除適期である。また、カイガラムシ類の多い園では、休眠期の12～2月までが防除適期となる。展葉期の4月下旬は、うどんこ病、ハマキムシ類、フジコナカイガラムシ、チャノキイロアザミウマの防除適期である。防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>